



だんべえ踊りでまつりは大にぎわい



世界の詩人が
前橋に



平成7年の前橋まつりでは、初めて前橋だんべえ踊りが登場。前橋音頭をアレンジして振り付けをしたもので、事前練習会にはたくさんの方が、20年以上たった今も、このだんべえ踊りが前橋まつりを盛り上げています。

平成8年には「第十六回世界詩人会議日本大会、%前橋」を日本初開催。詩のまち前橋に、世界中から詩人が集まりました。

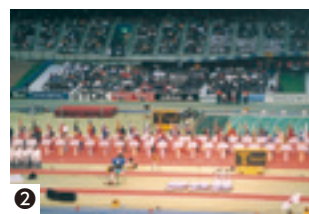
平成11年に、オリンピックなどと並ぶ世界最高峰の大会、世界室内陸上競技選手権大会を開催（写真②③）。天皇皇后両陛下を迎え、開会式が行われました。大会にはたくさんの方の市民ボランティアも参加しました。

そして平成16年12月に、前橋市と当時の大胡町と宮城村、粕川村が合併。平成21年5月には富士見村と合併し、現在の形に。新生前橋市として、新たなスタートを切りました。



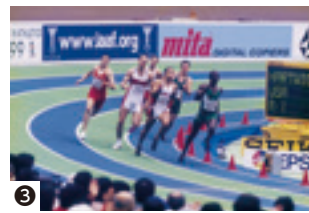
①

①大胡町と宮城村、粕川村の合併記念式典



②

②プラカード持ちは和服姿の市立前橋高生徒が務めました



③

③トップアスリートの熱い戦いに多くの観客が声援を送りました



平成25年の全国高等学校野球選手権大会、平成30年の全国高校サッカー選手権大会で前橋育英高が優勝。パブリックビューイングも行われ、明るいニュースに市内が盛り上がりました。サッカー部の優勝時には、中心商店街でパレードを行いました。



災害の時代、平成。本市では平成26年2月に観測史上最高の73cmの積雪を記録。建物損壊などの被害が出ました。多くの課題を残したこの大雪を契機に、災害対策の一層の強化に取り組みしました。



本市を活動拠点の一つにしたプロスポーツチームが、平成になって誕生。ザスパクサツ群馬や群馬ダイヤモンドペガサス、群馬クレインサンダーズなど、プロスポーツを身近に応援できるようになりました。

平成は、少子高齢化や人口減少が叫ばれる時代でもありました。そんな社会情勢の中でも前橋らしさを発揮していかねければなりません。本市では、まちづくりの方向性を示した第七次前橋市総合計画や、地方創生の取り組みを進める県都まえばし創生プランなどを策定し、次の時代へ向けたまちづくりを加速させていきます。

課題を見つめ直し、今できることを着実に。元号が変わることはあくまでも一区切り。新たな時代を一步一步進んでいきます。



文化施設の誕生も。平成5年には広瀬川沿いに前橋文学館が、平成25年にはまちなかにアーツ前橋が開館しました



平成から「令和」へ 前橋の平成を振り返る

4月1日、新しい元号「令和」が発表され、いよいよ日本は新しい時代を迎えます。

約30年にわたり続いた平成。前橋の平成はどんな時代だったのでしょうか。さまざまな出来事の中から、いくつかを振り返ります。

図 市政発信課 ☎027-898-6642



広報まえばしの特別号も発行されました



建設中のグリーンドーム前橋

平成元年の前橋。平成4年の市制施行100周年記念事業に向けて、機運が高まっていた時でした。記念事業の一つに、ヤマダグリーンドーム前橋（当時はグリーン）の建設がありました。本市の活性化を担う施設として大きな期待が寄せられ、名称が決まるまでは、前橋公園イベントホールと呼んでいました。

そして平成2年に完成。オープニング記念行事として開催されたのが、アジア初の開催である世界選手権自転車競技大会でした。オリンピックより古い歴史をもつこの大会。世界トップクラスの選手が熱い戦いを繰り広げるとともに、前橋が世界から注目されたイベントでした。



100周年を記念し、写真集前橋を発行しました

花の広場で100周年記念イベントの開会式を実施



プロと市民が一体となった市民ミュージカル

平成4年に市制施行100周年記念イベント「夢・華・飛翔・まえばし一〇〇祭」が盛大に開催されました。有名タレントによるコンサートや市民ミュージカルなど、市内各地で100周年を祝い、期間中は延べ54万人の人でにぎわいました。また、記念事業の一つとして写真集前橋も発行。古い写真の中には市民から寄せられたものもあります。